

お薬のしおり

百日咳について

No.84 (H20.10)

東京医科大学病院 薬剤部

あなたの周りでなかなか治らないしつこい咳に悩まされている人はいませんか？
もしかするとそれは百日咳ひゃくにちせきかもしれません。

百日咳は百日咳菌ひゃくにちせきによって感染し、特徴的な発作性の咳が出る急性の呼吸器感染こきゅうきかんせん症しょうです。昨年、香川大学で300人近い大規模な集団感染が発生したり、青森県内の消防署でも百日咳の集団感染が起きたことは記憶に新しいと思います。2000年以降で最も発症数の多かったのが昨年でしたが、今年はそれを上回る勢いで猛威を振っています。

百日咳はこれまで乳児から小児で流行する病気とされてきましたが、乳・小児についてはワクチン接種によりその報告数は大きく減少しました。その反面、成人の百日咳の報告割合が年々増加し、2000年には5%にも満たなかったのに、2008年7月時点では全体の約40%が20歳以上の成人患者という増え方です。この理由としては、小児期に接種したワクチンの免疫効果めんえきこうかが青年期や成人期で低下し、百日咳にかかりやすくなったことや、成人での百日咳の認識が広まり医療機関への受診が増加したことなどが考えられます。

百日咳にかかると、約7~10日の潜伏期間せんぷくきかんの後、カタル期、痙咳期けいがいき、回復期の3期の経過をたどり、治るまでに2~3ヶ月（百日くらい）もかかるために百日咳という名前がついたようです。カタル期（約2週間程度）では風邪のような症状から始まり、次第に咳の回数が増え、程度も激しくなっていきます。この段階では他の上気道炎じょうきどうえん（かぜ症候群）との区別が難しいとされています。その後、痙咳期（2~3週間）に入ると百日咳に特徴的な発作性の咳がみら



れます。コンコンという短い連続性の咳（スタッカート）の後に、息を吸う際ヒューという笛のような音（笛声）が出ます。発作は夜間に多く、嘔吐を伴う場合もあります。発熱はないかあっても微熱程度と言われています。回復期（2、3週間〜）では時折発作性の咳が出ますが、頻度は減り次第に良くなり回復に向かいます。このように百日咳には特徴的な症状があるのですが、成人では長引く咳が見られるだけで症状が軽く、百日咳に特徴的な症状を示さない場合があります。しかし、咳だけなので百日咳とわからずにそのままにしていると、菌を排出してワクチンを接種していない乳幼児にうつす危険性があるので注意が必要なのです。

百日咳の予防にはワクチン接種が最も効果的です。日本では百日咳、ジフテリア、^{はしょうふう}破傷風の3種が一緒になったDPTワクチンを小児期（生後3〜90ヶ月）に計4回接種します。生後12ヶ月までの乳幼児期に感染すると重症になりやすいため、早めの接種が勧められています。ただ、お話したようにワクチンの効果は一生涯続くわけではなく、大人になるとだんだん低下していきます。このため、子どもの頃にワクチン接種を受けたのに、大人になって百日咳にかかる人が出てくるわけです。米国では成人患者数増加の問題から、青年・成人用のワクチン接種が推奨されています。しかし、日本では、青年期や成人期に用いる百日咳ワクチンはまだ認められておらず、今後の成人予防接種について検討されているところです。

もしも百日咳にかかってしまった場合、治療にはエリスロマイシン、クラリスロマイシンなどのマクロライド系抗菌薬が使われます。これらは特に早期のうち（カタル期）に使うと症状が軽くなり有効です。また、感染拡大を防ぐために咳エチケットを心がけましょう。①咳・くしゃみの症状がある時はマスクをする ②咳・くしゃみをする時はティッシュなどで口や鼻を覆う ③咳・くしゃみをする時は周りの人から顔をそむける。この3つをぜひ守って下さい。

咳を早く治すために、また周囲の人への感染を防ぐためにも、しつこい咳がなかなか取れないようなら、早めの受診が勧められます。風邪かと思ったけれど咳がとまらずますますひどくなる、夜に咳がひどい、コンコンと乾いた咳が数十回連続して出るといった症状のある方は要注意です。一度お近くの医療機関を受診してみましましょう。